

第2回富山県地域交通戦略会議 議事録

日 時： 令和4年9月1日（木） 15：00～16：30
場 所： ANA クラウンプラザホテル富山3階 鳳（おひとり）
出席者： 委員名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

●新田知事

本日第2回の富山県地域交通戦略会議をご案内申し上げたところ、皆さん大変ご多忙の中、またお足元がよろしくない中、ご出席いただきましてありがとうございます。

人口減少時代の到来、また3年目に入った新型コロナ等、地域公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況と理解しております。しかしこんな中でも将来を見据えて地域公共交通の維持、あるいは確保、そして利便性の向上を図ることが重要な課題だと捉えております。

こうした課題を乗り越えるために本日はお集まりいただきまして皆様にお力添えをいただき、富山県地域交通戦略会議を立ち上げ、持続可能な地域の公共交通の確保に向けた新しい計画を策定することとしております。

6月に開催しました第1回の会議では有識者の委員の皆様から計画策定にあたっては交通事業の収支採算性や事業者への経営支援の観点、これももちろん大切なことなんですけれどもそのみからアプローチするのではなくて県民のウェルビーイング向上、こういう視点から議論を始め、検討することが望ましいのではないかというご意見をいただいたところです。

このようなご意見も踏まえまして7月から8月にかけて4つの部会がありますが、鉄軌道サービス部会、地域モビリティ部会、サービス連携高度化部会、そして交通ワーカー部会をそれぞれ開催いただきましてウェルビーイングの向上をもたらす公共交通サービスの姿について議論を深めていただいたところです。

本日は各部会における議論の結果を整理し富山県地域交通戦略の基本的な方針、考え方について皆様にご議論いただければと存じます。皆様にはそれぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

なおお詫びを申し上げますが本日私は別件が重なっておりまして終盤中座をさせていただきますこと、どうかご容赦いただければという風に思います。それではよろしくおねがいします。

3 議事

(1) 富山県地域交通戦略の基本的な方針・考え方等について

●石井会長

ただ今ご紹介いただきました、会長を仰せつかっております東洋大学の石井晴夫と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さきほど新田知事さんからもお話がございましたように6月の本会議の開催以降、7月及び8月に渡りまして4部会を開催していただきまして様々な観点から交通戦略に向けたいろんな議論をしていただきました。部会長の先生方、そしてまた部会の委員の皆様、心から御礼を申し上げます。

そしてまた今日は、この各部会からの報告、特に3部会からの報告をいただきまして、基本的な考え方、方針というものを打ち出していきたいと思っております。引き続き委員の皆様には格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶と代えさせていただきます。

それでは早速ですがお手元の次第に従いまして議事を進めたいと思っております。先程も申し上げましたように6月2日に第1回富山県地域交通戦略会議を開催いたしました。その会議ではこれから策定いたします富山県地域交通戦略は1. ウェルビーイングの向上を目指す計画とすること、2. 計画では県の地域交通の将来ビジョンとなる基本的な方針、考え方を整理し、その実現に向けた基本的な、具体的な施策、事業を策定していくこと、などについて委員の皆様からご意見を賜りましてご了承を頂いた次第でございます。

これを受けまして各部会長さんのもとで7月1日に鉄軌道サービス部会、8月3日に地域モビリティ部会、8月19日にサービス連携高度化部会、8月26日に交通ワーカー部会をそれぞれ開催していただきました。それに基づきまして計画の基本的な方針、考え方の整理に向けて、ウェルビーイングの向上を目指す交通サービスの姿についてそれぞれの視点から議論、整理を行っていただきました。

本日の会議ではこれまでの各部会での議論の結果をもとに富山県地域交通戦略の基本的な方針、考え方につきまして、皆様からご議論頂きたいと考えております。それでは早速でございますがまず事務局より各部会の議論の結果についてのご報告と富山県地域交通戦略の基本的な方針、考え方の案、及び当面のスケジュールにつきまして一括してご説明をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願ひします。

●事務局

(資料1、資料2、資料3に沿って説明)

(2) 質疑応答・意見交換

●石井会長

本日はこれより、先程事務局からご説明がありました、基本的な方針、考え方の案

について、特に資料2を中心に委員の皆様からそれぞれコメントを頂戴したいと存じます。もちろん部会の取りまとめや当面のスケジュールにつきましてコメントを頂いても結構でございます。

時間の都合もございますので大変恐縮ですが私から指名させていただきました委員の方から順にご発言をお願いいたします。時間の都合も限られておりまして大変申し訳ありませんがお1人3分程度でお話をいただければと思っております。それでは先程ご説明いただきました各部会の部会長の先生方からまず全体的な話を賜りたいと思います。

●宇都宮委員

関西大学宇都宮でございます。鉄軌道サービス部会の部会長をさせていただいております。

今回、富山県でこうした方針が出たわけですが、まず非常に大きな第一歩だと感じております。第1回の段階でウェルビーイングの向上という大方針が掲げられたわけですが、今回、それぞれの部会でかなり具体的な議論をし、具体的なイメージをつかんだ上で改めてこの大方針が出たということの意味は大きいと考えます。これは、私が部会でもご説明した欧州の計画基準となっている SUMP を具体化していく一歩に繋がるという印象を持った次第です。

私が参加しております鉄軌道サービス部会の関連で申し上げますと、個別に議論をすると、例えば先ほどありました混雑の問題は相当深刻であり、これではウェルビーイングではないと思うわけです。しかし、今までの議論は、生産性、効率性を議論する。なるべく少ないコストで、なるべく少ない車両でたくさん人を運ぶ。したがって、混雑の議論を問題にするということは、これまでの生産性や収支を重視した方向性とは実は結構違う。こういうことをはっきり理解し、みんなが共有できた。その意味で、今回の方向性というのは新たな一歩になると感じたわけです。

バックキャストで計画を立てるということは、決して容易なことではありません。しかしながら一つ一つ詰めていくと、例えば混雑しては公共交通は使えないとわかる。混雑はウェルビーイングという発想は従来とは違う。ここは1つポイントだったのではないかなと言うふうに思います。

それから、従来の基本的なやり方というのは、鉄軌道事業の場合は民間丸投げプラス若干の補助ということでした。これに対し、大方針の次に考え方ということで掲げられておりますけれども、今回、関係者とも議論し協議した結果、関係者の役割分担、責任分担をみんなで考えなければならなかった。

部会等では皆様から非常に前向きな発言がございました。単に事業ではなく社会全体の話である、という話をいくつか頂いたわけです。そのあたりは従来の計画とは違う方向で具体的に進んだと思います。

無論、役割分担、責任分担というのは決して容易なことではありませんが、責任を押し付け合うのではなくむしろ責任を明確化することによって役割をはっきりすれ

ばそれぞれの立場で力が発揮できるということです。その意味でも重要なことでもあります。

このことはさらに言えば、今後議論していく上で、公的な資金をどういうふうにするかということも含めた議論になるわけです。資金面も含めて考えていかなければならないということに対して一定の理解が得られ、そういう方針が出されたという意味でも重要なことだと思います。

それから考え方についても一つだけ申し上げると、地域住民の積極的関与というのも最初に掲げていただいております。ともすると日本の計画は決めたあとに最後にパブコメで市民の意見を聞くという形になりますが、今回の計画は SUMP が示しているように、最初から地域住民も含めたステークホルダーと議論しながら大目標を決め、次のステップに進もうとしている。このあたりも今回の富山県地域交通戦略というものが具体的な日本の SUMP の第一歩として進んだという印象があります。今回新たに方針、考え方が示された点について、非常に大きな一歩かという印象をもっております。

●大西委員

富山大学の西大でございます。私の担当は地域モビリティ部会というところで多様な交通の主体、それから地域住民等と協議をしながら意欲的な交通事業の取り組みについて意見交換をしていくというものでした。

その部会での意見交換なども踏まえて今回の基本的な方針、考え方の案を拝見しますと非常によくできている案だなという風に感じられます。

特に先程宇都宮先生もおっしゃっていましたが交通というと、ともすれば交通事業者には基本的には全部やっただくと、ただ多少の補助金はある。それに住民は従って使っていくという形だったところから今回ですね住民も参画をして、そこに意欲的に取り組める部分は住民も取り組んでいくというそういう部分がこの文言の中には含まれていると思います。

今まちづくりといったとき、誰かがまちをつくってくれるわけではなくて住民、それから自治体もそうでしょうし、その他様々な主体が関わり合って街ができていきます。その中に住民の暮らしがあるわけですが、その時住民は受動的に街を受け入れるのではなくて自分たちも街を作っていく側になるというのが今一般的な考え方かと思います。交通もまちづくりの一環と取りますと当然ながら参画をして行くべき対象となるかと思います。

ただ、住民の方から見ますとそれぞれ自分たちの暮らしのあり方というのがあって、住民それぞれがライフステージを持っていて、子どもを抱えているところから高齢者までそれぞれが使いたい交通のあり方というのがあってそれをある程度のところで妥協しながら暮らすところと自分から暮らしている地域で暮らし続ける形というのはどういうものかを考えていくときに今回の基本的な方針、考え方であると住民の方もですね、どういう自分たちの暮らしのあり方があるのか、特に富山という場所で自

分たちの暮らしを具現していこうと思ったときにどういう交通のあり方があるのかを考えて提案していくこともできるだろうと。そこは非常にこの基本的な方針、考え方はですねうまく反映させられる部分を持っている非常に柔軟性の高い考え方、方針だなと言うふうに感じております。

私が担当していた部会の中で意欲的な取り組みとして朝日町のノックルであるとか砺波市の散居村型モビリティ運行モデル事業の取り組みなども伺っていて自治体それぞれがかなりの努力をされていて、またそこに住民も様々な形で参画をしている例が出てきております。そういうものも踏まえながら様々な場所でのウェルビーイングの向上に向けた地域交通のあり方というのは基本的な方針、考え方を踏まえて更に具体的な検討を重ねていくと非常により良いものになっていくのではないかと考えております。少し長くなりましたが私からは以上です。

●長尾委員

富山国際大学の長尾と申します。サービス連携高度化部会を担当させていただきました。

事務局の方でまとめていただいた内容についてはサービス連携高度化部会においてうまくまとめていただいていますし、それを踏まえた基本的な方針、考え方についてもよくまとめていただいていると思います。

その中でサービス連携高度化部会として部会の意見の内容を聞いておまして、これから交通利用者の増加というものを考えていくにあたって、先程のとりまとめの中にも表現がありましたが、日常生活で役立つサービス、いわゆる利用動機をくすぐるような方法をこれからしっかり部会として考えていく必要があると意見を聞いていました。

特に日常生活に関連するような情報の内容ですね、ここにも健康管理情報という文言がありますけれども、今や健康経営という概念が企業組織の中においても考え方が徹底されているように、県民におきましてもやはり健康の維持、増進、これをどういうふうにやっていくか、それが連携高度化サービスの中のメニューとしてはっきりと位置づけていくことがポイントになるのではないかなと考えております。

特に最近健康増進に対してカロリーに留意されている方とか、定期的な健康診断、こういうものに対するニーズが高いこともありますし、富山県を考えた場合、薬都の街という大きな街のシンボルが掲げられていますので、そういう観点からも健康の維持、増進にかかるようなサービスメニューというものを利用者によって訴えて利用者を一人でも多くしていくことではないかなと思います。

その他にも日常においては、スーパー等のチラシ情報とか販促情報とか地域で行われているイベント情報とか、それから飲食店等の混雑状況とか、やはり日常の生活に役立つサービスメニューというものを部会においてどのようにこれから商品化するか、あるいは建設的な意見が出せるか、このことを今後検討できたらいいなというふうに考えております。以上です。

●品川委員

交通 MaaS アプリの my route を運営しております、富山 my route 推進協議会の品川でございます。

私ども富山 my route 推進協議会では、複数の交通機関を連携して利用者の方に最適な移動経路と目的地の嬉しさ、楽しさをお伝えするスマホ上のアプリを普及するプロジェクトを推進しておりますが、先般のサービス連携高度化部会でも申し上げた通り、利用者の方や交通事業者の皆さん、そしてお出かけの目的地という3つのプレイヤーの皆さんの「三方よし」を実現する、地域交通プラットフォームを目指すというお話をさせていただきました。

利用者よし、交通事業者よし、目的地よしという3つを両立する、Win-Win-Win の関係をつくる交通アプリをぜひ富山において育てていきたいという思いで取り組んでおります。

先程シームレスという言葉も出ておりましたが、最適な移動手段を利用者の方にご提示し、交通事業者の皆さんの利用も増やすと言う意味では、複数の交通機関がまさにシームレスに一体となって利用者の方にサービスをご提供する土台・プラットフォームとなるのが大事か思いますし、使いやすさと言う意味ではスマートフォンのアプリという形でワンストップである必要もあります。

また加えて支払い、予約を含めたオンライン決済が簡単にできる必要もあるだろうと考えます。そしてポイントだとかクーポンだとか、使ってお得な、また使いたくなる仕掛けも必要だろうと考えます。このシームレス、ワンストップ、簡単決済、ポイント・クーポンと言ったこの4つのキーワードで、今後ともサービスの向上を図って参りたいと考えております。

長尾先生もおっしゃっていましたが、目的地の魅力の発信、観光情報もそうですしイベント情報、店舗情報、健康情報も含めた様々な魅力の発信が重要であると考えます。またこの仕組みにより人々の移動のビッグデータがとれるわけですので、そのビッグデータを活用した人流の分析、また今まで見えていなかった新しい嬉しさの提供ということを考えていく必要もあるだろうと考えています。

そして結果として、地域交通の最適化プラットフォームという姿を実現していきたいと思いますし、そのために「三方よし」の各事業者同士の連携、また複数ある交通アプリ同士のシームレスな連携も今後図っていき、最終的に住民の皆さん、交通事業者の皆さん、そして県内観光地や商業などの目的地の「三方よし」を実現していくことがまさにウェルビーイングの実現につながるものだと思っております。

今月9月1日から新しくデジタルチケット2券種を my route で発行いたしました。富山市内まちなかおでかけチケットと殿さま街道フリーパスというチケットを発売しましたが、今後も年度内に多数の MaaS チケットを発売して参りますので、地域の賑わいと交通事業者さんの利用促進、あと観光地・商業の発展につながればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

● 畠山委員

よろしくお願ひします。博報堂畠山でございます。さきほど大西委員からもご紹介いただきましたけれども朝日町においてまさに地元の交通事業者さん、地元の住民、行政と一緒にノッカルというものをやらせていただけています。

今日いただいたお話で行くと、すべてにおいてアグリーというか、すごくまとめていただいたと思っております。特に2ページ目にあります、自治体や地域住民の地域交通についてはまさにそのとおりだと思いますし、ここに書かれていることにはなんの異論もないですが、少し朝日町においての実態も含めて、ここからがなにより大事だなと言うふうに思っております。

地域交通は特に、まさに目の前に座ってらっしゃる地域交通の事業者さんの負担にかなり偏ってるというか、これからの公共ということを考えていったときにいろんな公共のものが、私も朝日町で色々入らせていただいているんですけど、誰かの負担、誰か単一組織の負担にすごく偏ってるというふうに感じます。

それをまさにみんなで作っていくということかと思っております。これもまた言うは易しで、なかなかここからどう進めていくのかということにおいてはまさに次の第3回の会議までも含めて、このこしらえがなによりも大事になってくるかなと思っております。

例えば朝日町においてはこの4月から「みんなで未来！課」という課をつくらせていただきました。これは当社も一緒になってやらせていただけてるんですけど、公共物というのはだれかがやってくれる、特に住民生活者からすると、当然行政が聞いていくとオーダー・オファーになって来ると思うんですけど、そういう公共という人口減少において資源が限られてるなかで誰かの未来ではなくてみんなの未来、住民も含めてみんなの未来だね、ということでみんなで未来！課という課をつくって課の中でやるだけじゃなくて我々のような外部もそうですし、住民も巻き込みながら公共物を取り扱っていくということをやっていくんですけど、具体で動きをしっかりと作って設計していかない限りは総論OKだけど具体で進まないみたいな事態になっていくかなと言うふうに思っておりますし、それほどなかなか生活者、住民というのはそう甘くない、総論で動くような感じではないかなと言うふうに思っております。

ただし、ちょっとしたきっかけを作ってしまうればこれは参加していく可能性ありますし、ノッカルだって最初から総論OKで住民が参加したわけではなくて、なんかわかんないけど作ってくれた席で参加すると人の役に立ってよかったな、みたいなそんな話になってますのでやっぱりみなさんにとって早いうちから住民はそんなに甘くないですから、早いうちからしっかりと、この後自分ごとかみたいな話が次のキーワードになって来ると思うんですけどこれもなかなか難しいのでちょっとしたきっかけをそれぞれの人にもちながら運営していけるといいと思っております。

幸いなことに大きな流れとしても、高等学校において公共みたいな話が必須科目になってますし、すべての生活者が公共物というものはみんなのものなんだと考えてい

くことが大事かと思っておりますので、さらにその課題の一丁目一番地にあるのがこの交通みたいなところですので、これからの公共というのを交通からしっかりみんなで考えていくという実体物をこの富山県で是非、私は朝日町でまず活動させていただきませんが、それとともにこの富山県で是非実体物を一緒になってつくらせていただけたらなと言うふうに思っています。以上でございます。

●楠田委員

お願いします。私は地域モビリティ部会とサービス連携高度化部会の2つに参加いたしました。そこでは前向きでこうしたいという思いであったりとか、具体的な話があったことが印象的で、他の地域の検討会には出るんですけども非常に雰囲気の良い会議だなと思いました。

地域モビリティ部会の方は、例えば今お話があったように最近では田舎の方は昔は近所で助け合ったりとかちょっと乗せてあげようとか、というところが結構コミュニケーションの中にあっただけですけども、段々と自治体さんの方のサービスに頼ってお客さんみたいな雰囲気が多かったかと思うんですけども、その昔あった、まだ残ってる人の、お互い様、助け合うというところをうまくサービスがそれをサポートしながら良い地域を作っていくような形のサービスのご提案があって、それを自治体がサポートしたりとかまたはそれをシステム、デジタルが支えるというようなことがあって、それが今全国的にそういったものいいねってなってきたので、是非バスや鉄道であったりとか、そういったサービスが支えられないところをどんどんみんなで支える仕組みができたかなと思っております。

一方で色々な取材をしておりますと、はじめはすごい熱が、思いがあって10年くらいは続くんですけどもずっと続けるっていうと担い手不足であったりとか、仕組みが課題になってきますので、ぜひずっと続くような、この地域ずっと住んでいけるっていうお金の流れ、仕組みをしっかり作っていただきたいと。

それが全部、私が思うに税金で賄うんじゃなくて気持ちよく出したいなというサービスっていうところをしっかりと設計してお互い支えながらの仕組みをつくっていただきたいなと思っております。

サービス連携高度化部会の方ですが、笑い話なんですけど、他の地域に行くと事業者さんがあまり仲良くなかったりとかですね、県さんと交通事業者さんがあまり仲良くなかったりとかですね、気持ち悪い会議がたくさん存在するんですけども、こちらは、皆さん今、直面している課題が結構厳しくなってきたらっしゃって鉄道事業者さん、タクシー事業者さんからですねやはり事業者の垣根を超えて連携していきましよう。

それは本当にダイヤのところであったり、相互の運行の連携であったりとかタクシーさんであったり、タクシーの配車のところもどうにかうまくいっしょに一元化しながらみんなで地域の交通支えませんかという。デジタルだけじゃなくてリアルな組織であったり経営のところも歩み寄れるところと一緒にやっていきたいと思いますというお

話が自発的に事業者さんからあったというところは今の時代、方向性、新しい富山の形を作れるきっかけになっている非常にターニングポイントになってるんじゃないかなとおもいまして、是非、こういった会議がございますので新しい富山を日本から、日本にも発信して行ってですね先行事例にもなれるんじゃないかなと期待いたしました。

最後に、やはりこういった取り組み非常にいいですので県民の方にもしっかりと発信していただいて、やはり思うのが、私も車に頼った生活をしてきた地域で育ちましたので、先程健康管理のお話であったりとか免許返納というものがやはり社会的に取り上げられてますので、車に乗る人の目線をしっかり取り入れて公共交通を維持しましょうと。中々乗らないものはわかりませんので、しっかり車に乗らない方の目線でメリットを伝えつつ、それなら乗るよという仕組みをつくっていただきたいと思いました。

あとやはり全体的に見ると観光のお話が少し少ないかなと思いましたが、観光のお話も地域だけでは支えきれないところがありますので観光の部署とか連携しながらしっかり持続可能な交通を作って頂きたいなと思いました。以上でございます。

●麻島委員

老人クラブ連合会の麻島でございます。

老人クラブの会員数が富山県は13万人余りです。クラブの会員の減少は全国的な悩みではあるんですが本県もそうですけども、加入率はダントツで全国一であります。多分、まだコミュニティが生きてるんじゃないかなというような感じをもっております。老人が、高齢者たちがまだ元気に行動したいなというふうに考えている方が多くございます。

今回の基本的な方針、考え方について異論はございません。こうした戦略が進められる中で高齢者が元気で行動できたらいいなと思っております。せっかくの機会ですので誰もが利用できる使いやすくして便利で快適に移動できるという点で少しお話させていただきます。

私事ですがこの9月が自動車運転免許更新時期でした。6ヶ月前に更新手続きの案内が届きました。75歳になりますので認知機能検査と高齢者講習を更新前に済ませておく必要があります。75歳になるので免許証返納も考えましたが自動車運転なしでは現在のところ、旧郡部に住まいしていますのでそれなりの生活を維持できないのではないかと考えて更新することにしました。

その手続のためにすぐに自動車学校に申し込みしなければなりません。予約がすぐ一杯になるからです。つまりまだまだ多くの高齢者は免許を返納しないということですね。それで認知機能検査、高齢者講習にいきました。結構高額な検査料と講習料が必要です、嫌なら返納しろと言わんばかりでございました。

今年の5月から免許更新制度がいくつか改正されて、その1つにサポカー限定免許が新設されました。普通の運転免許の条件を安全運転サポートカーに限定する免許で

す。どこにメリットが有るのかよくわからないんですがニュースで現在まで希望者がゼロだと報じていました。むべなるかなです。

しかし私はサポカーに乗っております。ペダル踏み間違い防止とか自動ブレーキとか車線逸脱警報とかライトの切り替えとかその他様々な安心、安全のための設備がついております。安心、安全な運転のためにサポカーは心強い車です。少し前と比べるとかなりの進歩だと思います。今後さらに運転サポートの機能が進化することを期待しております。

また今後、先程話が出てましたがビッグデータや IoT、AI が大きく進歩すると言われています。これらの進歩は個人運転や地域交通の仕組みなどに大きな影響をもたらすのではないかと考えております。大きな、濃い話をしましたが AI などの進歩の過程で高齢者、障がい者もちろん誰もが利用できる扱いやすい安心安全な交通手段が工夫されて作っていかれることを期待しております。大いに期待しております。以上です。

●北岡委員

自治会連合会の北岡でございます。

先程から皆様のご意見を伺いながら、そして一等最初に事務局の方から3部会の内容、並びにそれをまとめた資料について説明を加えていただき、自治会連合会としても基本的な方針、考え方に異論はございません。十分納得をいたしております。

この資料2の中に色々と、地域住民の積極的関与とか地域全体とかいきいきと暮らせるとかこういう文言が頻繁に出てくるという、ここらへんにとっても納得感がありまして、地域住民を巻き込んでウェルビーイングという大きな目標を目当てに向かっていこうとする構えが見られ、自治会としての責任も大きいのだなと思っております。

感想を言わせていただきますと、異常なほどのこのコロナの感染者数の増大あるいはそれにともなってステイホームが定着し、マスク生活が定着し、そして外出の機会減等の実体があります。地域住民は公共交通機関に乗るにはかなりの勇気がいります。バス、鉄軌道等というような、だから外へ出るのにはちょっと控えようとか、そういうことがありまして、なおかつ加えて今、富山アラートが継続されております。

このコロナが一刻も早く収束して、この資料2に書いてありますような、地域全体でしかも使いやすく便利で移動に快適なそういうウェルビーイングといえますか、夢の世界の実現が一刻も早くなりますように期待しているところであります。以上であります。

●鹿野委員

J R 西日本金沢支社の鹿野でございます。平素は弊社事業にご支援いただき厚く御礼申し上げます。

まず、基本的な方針、考え方につきまして弊社も賛同させていただきます。弊社といたしましては鉄道事業者として安全・安定輸送があらゆるサービス、商品の根幹で

あるとの考えのもと、日々安全第一を積み重ねる不断の努力を行っております。

その根幹を前提といたしましてカーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす、最適な地域交通サービスの実現を目指すことは非常に大切なことと認識しており、また弊社が目指す地域共生の考えとも合致しているものと考えております。

このような議論においては、とかくその目の前の方法論に議論が集中することになりがちではございますが、ご当地におかれましては「自治体や地域住民の積極的な関与・参画、事業者間の協調など関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す」という考えを前面に打ち出させていただいております、事業者としても非常にありがたく、また心強く感じております。

「交通事業者単独の企業努力のみではウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現は難しい」ということを鉄軌道サービス部会のなかでも述べさせていただいておりますが、今後の議論の中で国や沿線自治体、そして地域住民の皆様と我々交通事業者が果たすべき役割分担等につきましてご議論させていただければありがたく存じます。

加えて、この地域として「目指すべきありたい姿」、ひいては「地域のグランドデザイン」をより具体的なものとできるよう、幅広く議論させていただきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

●日吉委員

あいの風とやま鉄道の日吉でございます。

資料2のいわゆる基本的な方針、考え方については今まで鉄道事業であれば事業者におまかせするというような状態だったわけですが、だんだん厳しい状態になってきているということもございまして、この計画戦略のなかで利便性をあげて、地域公共交通の持続可能性を高めるという考え方は非常に素晴らしいと思いますし、当社も全くもって同意でございます。

その中で実は今朝も隣のIRいしかわさんの区域ですが、津幡の周辺で雨が集中豪雨となり、当社線も抑止という状態が暫く続いたということがございまして、最近自然災害が非常に激甚化してきております。

何が言いたいかという、この基本的な考え方の中のいわゆる最適な地域公共交通サービスには、当然安全が前提として入っているはずで、SUMPの考え方の中にもいわゆるパッケージの中で安全というものが当然入っておりますので我々としてはその安全がベースであるとは理解しているのですが、如何せん、安全という言葉が一言もないとちょっと不安になるところもあります。

例えば使いやすくして便利で快適に移動できるというところに、安全快適に移動できるといったような表現を入れていただければ我々としても鉄道事業者として安全第一は徹底されていますので、助かるかなと思っております。以上です。

●新庄委員

富山地方鉄道の新庄でございます。よろしく申し上げます。

弊社としてはこれまで開催された交通会議において、もともと赤字の公共交通を民間事業者として運営する難しさを事業としての採算性と公共のサービス提供という狭間で苦悩していることとその両立のために事業者としてやる経営努力は採算性、そして効率化を重視せざるを得ず、それは公共交通サービスの継続、充実とは相反する場合もあることについてお話させていただいております。そしてそれらにどう対処するか関係の皆様と考える時期にあると協議をお願いしたところであります。

そういうなかで策定されたこの地域交通戦略においてはその方向性となった採算性より利便性を重視することについては当然採算性を重視すべき民間事業者の思いとは異なりますので当初は不安もございましたが、公共交通の果たす役割は、今は移動の足として、そしてまさに採算性を意識した、利用されているか、あるいは利用されていないか、事業の視点での公共サービスとして提供されていますが。一方戦略においては、移動の足としてのみの狭い視点ではなく、町づくりや環境問題、健康維持など人や社会全体のサービスとすることから、それはもはや交通事業者だけによるサービスではなく県、市町村、そして地域の皆様とともに創り、提供するサービスで、そして事業者の課題もその取り組みのなかで一緒になって考えられることと大変心強く思っております。

ですので弊社としてはこれまで事業の一環として大変厳しい経営環境の中、効率化も重視するサービスを行ってまいりましたがこれからは自治体、他の事業者さん、そして地域の皆様と一体となって地域全体により便利な公共交通を提供するために取り組むこととし、そしてその基本となるこの戦略を進めるにあたっては交通事業者としての大変なやりがいも感じているところでございます。

ただ先日開催されました交通ワンチーム部会において自治体の皆様にはこの戦略への主体的かつ積極的な関与をお願いし、その上で安定的な運営につなげたい、そういったお話をしてきたところでありますが、今後協議を進めるにあたっては協議にかかわる皆さん全員が公共、民間それに加えて利用者の3つの視点を意識してどこか一方だけに過度な負担とならないように、そしてなにより電車、バスがただ走っていることを目的とせず常に実際に利用されてこそその思いを強くもって沿線の市町村、そして地域の皆様の意見やデータを活用した、より地域の実情に見合った最適な交通サービスについて考えてまいりたいと、このように思っております。以上でございます。

●石橋委員

富山県交運労協の石橋です。先回るときもお話をさせていただいたんですけども、私たちは交通運輸の事業者のもとで働いている労働者の立場ということで発言をさせていただきました。

それで基本的な方針、考え方ということで資料2にまとめていただいたところですね、非常に簡潔に部会の議論をまとめあげてあるんだろうと率直には思いました。

先ほどありましたように私たちは事業者はもちろんですけども鉄道、バス、タクシーを含めましてやはり公共交通、人の命を預かるという大前提、安全安心ですね、こういったことがあるということでございますので先程のお話と少し被るかもわかりませんがそれを担っている運転手、乗務員、そういうことも大前提としてあるということも、文章の表現にはなくても大前提として今後の検討される中にはそういったことを十分配慮をしていただきたいというふうに思います。

それで私は資料2にまとめあげられた文章を読んで思いましたのは自治体とその地域住民の積極的関与、参画ということが入っています。それで先ほどありましたように朝日町のノッカルですとか、あるいは砺波市の方でも今後やっていかれるというのは私も伺っておりますけども、私達職能労働者、資格を持った労働者が、さきほど言いましたような安全安心を担保しながら皆さん方を安全に移動をするという任務でやっています。

地域住民の方が積極的に入ってウェルビーイングを求めながらやるというのは非常に、考え方としてはわかるんですけどもやはりそこには、その下に書いてあります通り、役割の分担や責任の分担、こういったこともはっきりと議論の中に上げていただく中で、できることとできないこともあるということも是非議論をしていただく中で皆さん方に知っていただくことが大事なんじゃないかなという面も持っております。

先程からありますように民間の事業者、もちろんみんな民間なんですけどどうしても採算性というものがつきまとう。そのなかには私達、働くものもそれによって私達の賃金や労働条件が決まってくるという直結した内容もございますので是非そういう面も含めて今後の中で議論をしていただくとして。

一番いいのはですね、私が昔から思っているのは、住民の方々、県民の方、旅行者もそうですけど誰一人として取り残されない、それが第一なんだというふうに思います。病院に行きたくても行けないとか買い物に行きたくてもいけないとかそういう取り残すことのない、そういうふうな地域交通をキチッとつくっていくのが県の戦略会議だというふうに私は捉えておりますのでそういった大前提を最後まで貫いていく中での議論を各部会の中でも深めていただきたいなというふうに思ってます。以上です。

●美濃部委員

これまでのとりまとめ、本当にありがとうございました。ウェルビーイングを基本とした交通政策の考え方、本当に富山市が今まで進めてきた政策の通りでございました大歓迎でございます。

それからこれから具体論の議論になると思いますが、富山市においても来年度までに交通戦略を策定しようと思っておりますので、県との整合を図るためにも今年度のスケジュールを示していただきましたが、本当の交通戦略の最終案の骨子とか、そういうものがいつ頃示されるのか、そういうのも早く示していただいて共同して進めて

行ければいいかと思っております。

それで今年の8月の陳情を市長と一緒に行ってきて、道路とか河川とか通り一辺の事も言ってきたんですけど、今年は重点要望の中に1ページ、富山市でやってきた街中の買い物等に100円で行けるおでかけ定期券ですとか高山線の増便事業とかですね、そういうことを全国でやれるように国からもお金出したらどうですかというのを1枚加えて、それだけは詳しく説明して感触を聞いてきたんですけども、まさに国は地方のモビリティの委員会の結論を出して、旧国鉄のローカル線の廃止を含めた協議を進めようとしているところで、その反面残すところにはちゃんと都市交通の機能を果たせるようなテコ入れもしていこうと思っております。色んな具体策を書くときにいつも財源が取れるもの取れないものでだいぶバイアスをかけて取りまとめて行くことになっていくと思うんですけども、その財源が何に取れるかというのはこの3ヶ月で大きく変わります。

我々高山線の増便事業だとかおでかけ定期券だとか、我々市の単費でやるものをJRさんにも特別に認めていただいてやっていただいているということで、これはJRさんにも富山市がいつも協力していただいているので富山県富山市は特別で全国に先駆けてやってるんですよといただいているんですけど、そういったものが全国スキームになっていくときにもっと色んなところに国のお金も入ってですね、今まで本当はこれが一番いいのにできなかったことができるようになっていくかもしれませんので、この会議はそんなに何回も開けないかもしれませんが県、市、JRそして国と一緒にですねどんなものができるかを密に議論していきたいと考えておりますのでそういった成果もこの計画に落とし込んでいけたらなと思っております。以上です。

●河村委員

最適な地域交通サービスの実現を目指すということ、それを自治体、地域住民の積極的関与でありますとか役割分担、責任分担のもとに進めるという取りまとめにつきましては私としましてもその通りかと思えます。

ただ、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスということで記載いただいておりますが、実体といたしましてはウェルビーイングの向上以前に社会的インフラを維持するための励むべき部分なり取り組みなりそういったものもあるはずであって、最終的にはウェルビーイングの向上に繋がるものであっても、本当に必要不可欠な取り組み、パーツ、路線あるいは手段、あるいは向上に向けたよりよいサービスに向けての取り組みといった濃淡様々があると思えますので、そうしたものがあつたということを示した上で、役割分担、責任分担というものを考えていけばより議論が深まるのかと思えます。

前向きな議論ももちろん大事なんでしょうけど、どちらかといえば現状維持、あるいは現状よりやや下がるというようなことも是認した上で、それをもとに区分を変えていくという視点も必要ではないかということで、役割分担などを考えるときは、そ

ういった観点も踏まえた上でいくつかカテゴライズするなり、あるいは段階、濃淡をつけた形で議論を深めていくことがより良い議論になるんじゃないかと考えております。

●小竹委員

よろしく申し上げます。前はは上市町内の公共交通のお話をさせていただいたので今日は町を越えた、特にうちの場合は地鉄さんとのお話をして具体的に例示をお話したいと思っております。

当町では地鉄本線のことを、県庁所在地であるこちら富山市の間を繋ぐ大変重要な公共交通と考えてまいりました。そしてこれまでに色々な利用促進策も実施して参りました。

例えば新相ノ木駅などの新しい駅のパークアンドライド駐車場を町の方でつくらせていただいたり、最近では昨年の秋になりますけれど、上市駅、これが開設 90 周年という節目でしたのでこの記念事業というのを盛大に開催をさせていただきました。

具体的には本線を走ります電車、これで今は多いんですけどはじめて当町がラッピングをやらせていただきましたし、駅の昔の写真とかスタンプラリー等、いろんなことをやらせていただきました。

そしてまた、鉄道でもないんですけどバス、高速バスに関しまして今年の春から上市スマートインターチェンジの方にバスの停留所ができましたので、現在運行している新潟便の利用者の半額助成というキャンペーンも今月までやらせていただくなど、町としてできる利用促進策を考えて今まで取り組んだきたところでありました。

そしてそういう姿勢は今後も続けて上市町の町民の皆さんにとってはこの地鉄本線というのとはなりませんので精一杯応援していきたいと考えております。

そのなかでちょっと1つ要望、この中でいうのもおかしいですけど、利便性向上を今回目指しておられますので北陸新幹線の最終便、これが今まで上市駅までちゃんと乗り継ぎできたんですけど先ほどおっしゃられたように色々な苦渋の決断でそれが今は乗り継ぎできない状態となっております。是非これを復活してほしいという声がたくさんありますので、この利便性向上というところも考えていく中でこれも考えていけたらというふうに思っております。以上です。

●新田知事

委員の皆様のご意見表明の途中でございますが失礼をいたしますので一言申しあげます。

一年間議論をしまして今年の2月に策定公表しました富山県成長戦略、この施策の中心にウェルビーイングの向上というものを掲げております。そして6つのワーキンググループでそれを実現していこうということでまさにウェルビーイング戦略、まちづくり戦略、ブランディング戦略、新産業戦略、スタートアップ支援戦略、県庁オー

プラン戦略、この6つの柱を建てております。

この公共交通のことは、まちづくり戦略の中の大変重要なパーツになってくるといふふうに理解をしております。今日のところ、誰もが利用でき、便利で快適に移動でき、そして社会と関わりを持ち、いきいきと暮らせる、お得感、満足感、新しい発見、本当に公共交通に乗ってるだけでウェルビーイングが高まっていくような方向性を今お聞きをしております大変に期待をしているところでございます。

どうか委員の皆様は引き続き富山県の地域公共交通政策のためにまたお知恵をお貸しいただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

●石井会長

それでは時間も迫っておりますので、さきほど委員の方からご提案がありました、資料2の下のところ、ウェルビーイングの向上を目指す最適な地域交通サービスの「1. 誰もが利用でき、使いやすく便利で快適に移動できる。」に、安全という言葉を入れたほうがいいのかという点、これに事務局何かございますか。

●事務局

事務局でございます。もちろん、もともとの考え方としましてはモビリティにとって安全確保が第一に、大前提に必要という考えでこの文章を書いておりますが、委員からご意見いただきましたのでそれを踏まえましてはっきりそれがわかるように、「便利で安全快適に移動できる」といった形に修正させていただこうと思います。以上でございます。

●石井会長

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(委員から異議なし)

はい。ありがとうございます。

●高木委員

大変良くまとまってきていると思います。特に私が感心したのは役割分担であります。役割分担、責任分担と書いてありますが、みんなが協力してこの課題を担いでいくということです。

自分さえ良ければいいと思ってる人は一人もいないと思いますがやはり誰かがお金を出してくれると思ってしまうところがあります。今ほどの安全第一はですね全くその通りで安全安心を重視するとですね、よくJRで高山線等が止まっております。えっと思えますけれど、こういうこともやむを得ないという、要するに安全第一だけどもいつも動いてよね、とそういうことにはならんという覚悟が必要なのではないかと。

また、利便性、僕は大事だと思いますが、ただ最低限のコストを考えた上での利便性だと思います。そのポイントはですね、例えば満員だから列車を増発する、これは

愚策です。やはり譲り合い運動と合わせてやる。時間をずらせる人は時間をずらして乗っていただく、その分の料金を安くする。

こういう色んなことを多面的にやっていくことが大切で、またウェルビーイングもこのデフィニションをもう少し明確にしていくべきだろうと思います。きっかけがあればみんながやっていただけるという博報堂の話がありましたが、本当にそれに参画することによって自分もこの街に住んでるんだ、富山県に住んでるんだと。そして自動車に乗り続けたい人いっぱいいるけど、子どもや高齢者は公共交通機関も大事で、今みたいなやり方では公共交通は残れなくなる。そのときに本当に生活ができない人も出てくる。この辺のことをみんなが理解していく事が必要でないかと。

地域交通に参画意識を強く持っていただくには例えば森林で、富山県ではワンコイン年 500 円をみんな出して里山で熊の被害だとか鳥獣被害を防いでるわけですが、更新のたびにアンケート取っているんです。大体 87%の県民は賛成です。ですから交通についても広く負担していただく、こういうことも考えながらいかにウェルビーイングにもっていかということは今後さらに議論を深めていく。

ポイントとして、こうして欲しいああして欲しいと言う前にあなた方はなにが協力できるのかと、お互い知恵を出し合って、人口減少が加速する地方においてなんとか公共交通機関を残して現状以上に快適に生活できる、そのために IT も必要でしょうし、色んなことを検討していただきたいとそんなふうに思います。

●宇都宮委員

宇都宮でございます。発言の機会をいただいたということで僭越ながら今日のまとめをさせていただきます。各部会の話聞いていても基本的にはそんなに大きく外れてるといよりはみんな同じことを語っているなと言うのがまず第 1 印象でありました。

それから、こういう会合をやりますともちろん多様な意見は出るんですけど、今回の場合、比較的、事業者を交えてとか、先程楠田委員もおっしゃってましたけど皆さん、お互い理解しながらやっているというところも特徴かなというふうに思いました。

そうした中で今後は総論から各論になるわけで、これも先程お話がありましたけれど、目標設定、更にはその具体的な施策というふうに移っていくわけでありまして。

その上で重要なのはまさに高木委員もおっしゃいましたけれど、今回の方針の考え方にある関係者の役割分担、責任分担を考えることです。この手の公的な文書でいままでの仕組みを変えるという、意外に言いにくかったと思うんですが、県もそれをはっきりおっしゃっておられる。

ここには先程申し上げた資金的なものも含めて入ってござるを得ないわけです。そういったところも含めて踏み込むんだと、これも大きな一歩でありますので是非今までの各部会でなされたように、お互いを理解しながらいいものにしていこうという雰囲気を保って次に進められるといいと思う次第です。

資金に関して一言だけ申し上げるなら、通常のビジネスであれば時代の変化とともに

に常に投資をしていっているわけであります。必要な資金というのは費用ではなくて地域への投資だと。しかも一定の責任と役割がはっきりすれば、やらせられているのではなくて自分たちがやるんだと、そういう形でやっていけるようになるのではと考えます。

そういう意味でもステークホルダー、自治体、地域住民の皆さんが早めから参画をしてやるということも重要かと思えます。是非そういう前向きな形でもっていければいいし、幸い今日話を聞いているとそういう方向でこの戦略会議はいけるのではないかなと思えます。第一歩から第二歩に向けて、私自身もそのつもりでやっていきたいと思っております。以上でございます。

●石井会長

各部会長の先生方には引き続きご苦勞をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは時間も迫ってまいりましたのでこの辺りで一旦意見交換を終了させていただきますと思います。委員の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。それではここで本日の会議のまとめに入りたいと思います。

本日、各委員のご意見をお伺いしましたところ基本的な方針、考え方、案については反対のご意見はなかったというふうに思います。事務局の方からご説明もありました資料については先程若干でございますが安全への配慮ということで事務局からも文言の修正がございましたが基本的なところでは本会議としてご了承いただけるのではないかとこのように思っております。

今後県民の皆様への発信、共有していくということで、資料2の考え方、基本的な方針というものはこれでよろしいでしょうか。

(委員から異議なし)

はい、ありがとうございます。それでは資料2の基本的な方針、考え方をもとに今後、計画策定に向けた議論をさらに進めて参りたいというふうに思っております。それでは事務局におかれましては当面のスケジュールのご説明にありました通り、今後、目標の設定の議論や具体的な施策等につきましての議論を進めていただきますようお願い申し上げます。

各部会の部会長の先生方はじめ、委員の皆様におかれましては、どうか引き続き格別のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。それでは本日の会議の議事につきましては以上でございます。

4 閉会